



東地中海地域ニュース

トルコ：大統領選挙及び次期総選挙をめぐる動き

(5月2-7日付現地報道)

1. エルドアン首相の演説（5月2日、国会会派会合にて）
 - (1) 大統領選挙に関する憲法裁判所判決を受け、早期総選挙の実施、大統領民選化等に関する党の決定を確認した。AKP は共和国の理念と民主主義を体現する政党であり、宗教政党ではない。野党共和人民党（CHP）の批判は中傷に過ぎない。
 - (2) 憲法裁判所の判決を受け入れるが、法律論的観点から多くの議論を呼ぶであろう。本判決により、国会は大統領を選出する能力を失った。同判決は民主主義に打ち込まれた銃弾である。

2. ケイシー米国務省副報道官の発言（2日、定例記者会見にて）
 - (1)（米国のトルコの民主主義に対する支援を問われ）第一に、米国はトルコの内政に関し指示する必要があると思わない。我々はトルコの人々が自ら指導者を決める権利を持つことを全面的に支持し、トルコ内政への外部からの介入を拒否する。我々はトルコの首相が先日述べた通り、トルコの人々が投票を通じて指導者を決めるべきであると希望している。
 - (2) 我々がトルコにおける民主的秩序を支持しているのは明確であり、憲法及び投票箱により支配が行なわれることを希望している。軍或いは他の何者かがトルコ憲法に定められたプロセスに介入したり、憲法に定められていない行動を起こすことを希望しない。

3. 次期総選挙に向けた中道左派政党による選挙協力（中道左派連合形成）の動き
 - (1) 5日、セゼル民主左派党（DSP）党首とバイカル共和人民党（CHP）党首との会談が行なわれ、次期総選挙に向けた協力の可能性が協議された。
 - (2) 更に DSP、CHP 両党幹部の間で詳細が協議され、両党の合併ではなく、CHP の比例代表候補者名簿に DSP 候補者を載せる形で選挙協力を行うことが検討された（注：CHP は当初 CHP による DSP の吸収合併を提案していた。DSP 側は 20-50 人の候補者を名簿に載せることを求めている）。
 - (3) 社会民主人民党（SHP）のカラヤルチュン党首は、中道右派及び中道左派における統合の動きを歓迎した上で、SHP に協力要請がなされていないことを批判し、「SHP を欠く中道左派連合は真の意味での連合とはなりえない」と述べた。